
塩山北中学区ブロック交流研究会

「小中の連携をはかり、 塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう」

I 主題設定の理由

塩山北中ブロックでは、これまで「地域で子どもを育てよう」という考えの実現に向け、教職員同士の連携を図ってきた。多くの児童が同じ中学に入学し、同級生となっていく。このようなことから地域の様子や子どもの実態を知る上で小・中の連携は、不可欠である。児童から生徒への成長や、既習の学習内容・授業規律などを知り、児童・生徒同士、教師同士、児童・生徒と教師の交流を図ることで、一人一人により教育効果の高い教育活動を行うことができる。学校・地域・保護者の連携の必要性が求められている中で、中学校区全体で塩山北中ブロックの児童・生徒を育てていこうと考え、本主題を設定した。

II 研究の具体的内容

1 第1回ブロック交流研究会（小中連携の情報交換会と臨地研修）

(1) 日時 令和元年8月7日（水） 13:30～16:00

(2) 目的 児童・生徒の学習課題を解決するため、教職員の見識を深める。

塩山北中学校区内の文化財や市内にある国宝の見学等を通して地域について学び、子どもの地域学習に役立てる。

(3) 場所 大藤小学校 菅田天神社

(4) 内容

ア 学習会「塩山北中学区の縄文遺跡について」

講師 甲州市役所 文化財課指導監 小野正文様

・大藤小学校の「地域にある縄文遺跡」について学習会。

イ 臨地研修 菅田天神社「国宝公開」見学

・菅田天神社に移動し6年に一度御開帳される国宝について説明と見学。

ウ 情報交換・テレビ会議打ち合わせ会

・学年ごとに分かれて3校合同で実施する授業について、実施時期や教科、内容について相談と検討。

2 第2回ブロック交流研究会

(1) 日時 令和元年11月6日（水） 15:00～16:50

(2) 目的 学習会を通し、次期学習指導要領実施に向けての小中連携のあり方について、理解を深める。

(3) 場所 塩山北中学校 パソコン室

(4) 内容 講演・学習会

「あらたな時代に向けて 確かな学力を育む主体的・対話的で深い学び」

講師 金沢学院大学教授 多田 孝志先生

3 第3回ブロック交流研究会

(1) 日時 令和2年2月19日（水） 14:00～16:30

(2) 目的 授業参観と情報交換により、児童生徒の実態把握と小中連携について理

解を深める。

(3) 場所 玉宮小学校

(4) 内容

ア 授業参観	1年	算数	図を使って考えよう	青木 恵教諭
	4年	理科	水のあたたまり方	滝島正彦教諭
	6年	算数	速さの活用	古屋岳治教諭

イ 研究会と情報交換（各教室）

- ・本日の授業について
- ・教科における小学校・中学校の連携について
小学校における教科指導（複式学級含む）の成果と課題（小学校より）
と小学校の内に習得させておきたい内容について（中学校より）
- ・メディア長時間の使用の悪影響，子供と ICT の問題について
確かな学力育成プロジェクトの「メディアと ICT のリーフレット活用」
について各校の集計結果をもとに情報交換と検討。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・第1回の交流研究会では，中学区の縄文遺跡を知り，歴史を大変身近に感じることができ，理解も深まった。また，6年に1回の国宝御開帳ということで臨地研修を取り入れた内容の濃い学習会となった。地域の人材活用という視点からも，有意義な研修となった。
- ・第2回の講演学習会では，これから生きる子供たち求められる力とそのための教育はどうあるべきか，今後の方向性等私たちが進むべき方向性を示していただいた。実際にグループで対話をしながらの講演で，授業の中にどう仕組んでいくか，実践的具体的な内容で大変学ぶことが多かった。教師自身の意識変化の必要性など要点を得て学べた。
- ・第3回の交流会では，3つの授業公開をしていただき，自由に授業や児童の様子を参観することで，授業だけでなく発達段階による児童の様子も知るよい機会となった。授業後の研究会・情報交換会では，各小学校から複式学級における教科指導の方法や成果と課題について情報交換ができた。中学校につなげていくための課題等についても確認し合い，今後の小中一貫した指導につなげることができた。
- ・甲州プロジェクトで取り組んでいる各校の資料を有効活用し，互いの児童生徒の様子について情報交換をした。これにより各校の様子だけでなく，ブロック内の児童生徒や保護者の実態や考えについて，客観的にとらえることができた。

2 課題

- ・来年度からのブロック交流会の時期や回数の変更に伴い，研究会の内容や分担等について改めて検討していく必要がある。

Ⅳ 研究方法の工夫

- ・各校でまとめた甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの資料「ICT 緊急提言」「メディアリーフレット 家庭での活用事例について」を活用し，情報交換をするよう工夫した。
(ブロック長 廣瀬 きよ美)